



大阪版  
No. 494

発行所  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034  
東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター 全労連会館

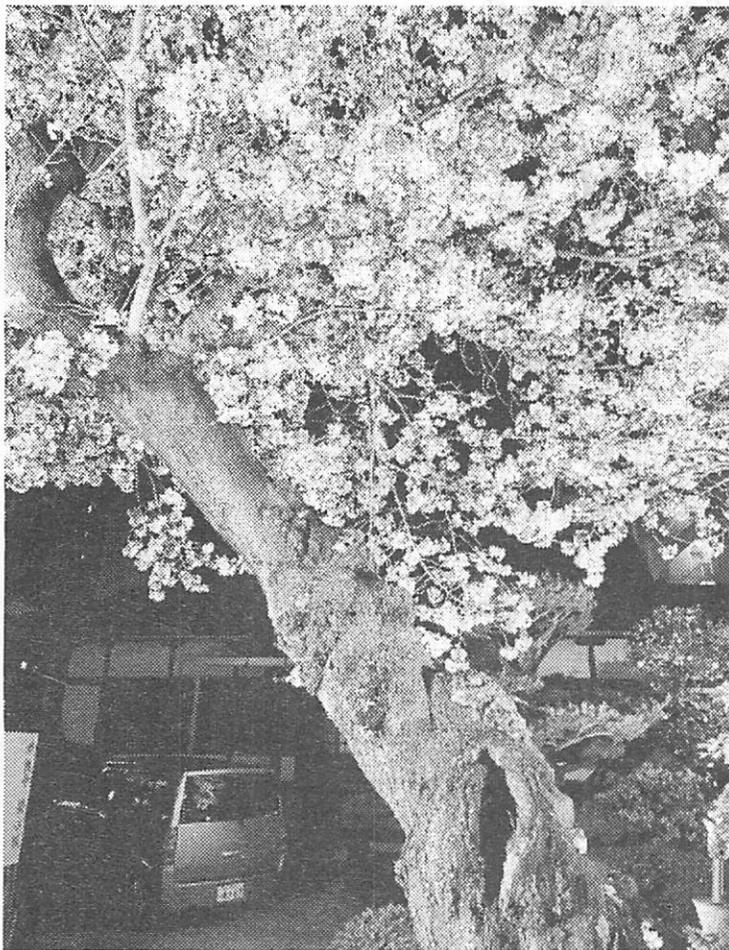
大阪府本部  
〒543-0045  
大阪市天王寺区寺田町2-6-2  
東大阪(ARK)ビル3F

TEL・FAX 06-6772-7555  
振替 00910-6-53293

E-mail  
tidouusk@opal.plala.or.jp

URL  
http://doumeinews.exblog.jp/

仲間をふやし、国賠同盟を大きな組織にして、  
「戦争する国」から「憲法9条」を守る国づくりへ



大阪市中央区谷町・妙徳寺の夜桜 (撮影：佐野)

新聞報道によると、沖縄県・石垣島に3月開設された陸上自衛隊石垣駐屯地が、今年にはいり本格的に稼働した。

防衛省は近年、南西諸島に続々と陸上自衛隊の部隊を配備している。中国が台湾への軍事的圧力を強める中、防衛体制の強化を急いでいるためだという。

石垣駐屯地には、警備部隊とミサイル部隊を中心に約570名が常駐する。ミサイル部隊は、艦船を狙う「地对艦船誘導弾」と、軍用機やミサイルを撃ち落とせる「中距離地对空誘導弾」を運用する。離島防衛に即応する海兵沿岸連隊との連携も視野に入る。23年度から5年間の防衛費を総

### 私たちの運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

額43兆円とする防衛力整備計画に基づき、23年度中に沖縄本島に地对空ミサイル部隊を配備し、与那国駐屯地にミサイル部隊や相手の通信妨害などを担う電子戦部隊を配備することも計画している。日本は今後も更に南西諸島の防衛体制を強化する方針だ。

沖縄を捨て石にしてはならない。沖縄県民が「再び沖縄を戦場にしない」と訴えて集会やデモを行っている。本土にはない危機感がある。小池書記局長が2月の国会で300か所の自衛隊の強化対策などについて質問し、日本全土が戦場になる危険を訴えたが、地方紙以外の大新聞社は報道しなかった。

3月30日志位委員長が、「日中問題の前向きな打開策のため」などの提言を岸田首相と会談を行ったが、大新聞は報道しなかった。日本共産党外野である。今こそ「反共は戦争の前夜」を許さない闘いを広げていくのではないか。

(大石喜美恵)

## 4月理事会

4月理事会は、4月1日(土)13時30分から国労大阪会館1階会議室において、柳河瀬精元名誉会長の著書『告発 戦後の特高官僚』の「はじめに」の読み合わせをしたあと、佐野副会長を議長に開催しました。

## 大石会長あいさつ

4月9日には府知事・府会議員・大阪市長・政令市議会議員の投票が行われ、23日には一般市の市長・市議会議員の投票が行われる。府知事候補のたつみコータロー氏は、カジノ誘致は中止、府内全市に保健所を設置してコロナ対策を継続、ジェンダー平等をあらゆる政策の根本にすえるなどを重点公約としたレインボープランをかかげている。大阪は維新政治のもとで全国最悪のコロナの死者を出している。維新は過半数維持へ候補者を擁立し、自民党・公明党は組織固めを強めている。府内では、すでに「勝共連合」による反共ビラもまかれていた。

支部が毎月2名の仲間ふやし運動に挑戦しよう！  
マイ名簿を見直して仲間ふやしの訴え、  
趣味の会などの友人に仲間ふやしの訴え、  
が出来る様に支部の役員会で話し合いました。

能力保有のための大軍拡をすすめるものである。相手基地を攻撃することは「専守防衛」の枠を完全に逸脱しており、外国の人と都市を攻撃することになれば憲法で禁止されている「戦争や武力行使」になる。敵基地攻撃能力保有はアメリカからの要請だが、自衛隊がアメリカの軍事戦略の一端を担うということが明瞭になったことから、憲法9条から正当化できない。岸田政権の大軍拡、暮らし破壊の政治を許さないためにも、統一地方選挙に勝利していきたい。

甲斐事務局長の報告

仲間ふやしは、3月は2名の加入者があったが、13名が退会しており、2007年の2400名からとうとう1892名にまで後退してしまった。会員の減少が事務所維持に必要な金額に満たなくなってきた。毎月10名前後の減少を食い止めて増勢に転じるためには各支部毎月2名増員の達成は不可欠な状態

であり、支部の仲間たちへの訴えに力を入れてほしい。

7月9日(日)に国労大阪会館3階大会議室で第42回府本部大会を行う。それまでに50名増の1940名で大会を迎えたい。

『不屈』の大阪府版は、今年の10月号で創刊500号をむかえるので、それを記念する号にしたいと考えている。

9月25日(月)から26日(火)に、近畿ブロック会議が道頓堀ホテルで開かれるので一人でも多くの会員に参加してほしい。

女性の会からの報告

4月29日(土・祝)にたかつガーデンで平井美津子さんを講師にお招きして大阪母親大会のプレ企画を開催する。女性の会も会員が減少しており、会員増やしの訴えに取り組んでいる。

署名推進委員会からの報告

署名は、現時点で目標の1万筆に到達するのは困難だが、昨年の分と比べると増加している。支部に所属していない会員に対しては、支部の結成で署名の協力のアプローチをしてほしい。各行政区でのリーダー、扇

町公園の中央集会などでも多くの署名を集めたい。

各理事からの報告

岩下理事(国際部) 日本近現代史の研究会を組織し、そこで会員の拡大に取り組んでいる。

岸野理事(貝塚) 『不屈』は、毎月原稿集めが大変なのでアイデアを出してほしいし、会員の生の声も出してほしい。

上山理事(池田・箕面) 6月24日(土)に国労大阪会館で菅野須賀子の会の総会を開催する。また、5月27日(土)に兵庫県学校厚生会館で第5回大逆事件サミットが行われることになっており、翌28日(日)にはフィールドワークも予定している。

大島理事(枚方・交野) 署名用紙は毎日持ち歩いており、機会があれば署名をしてもらっている。支部としては、今後会費滞納者への整理をしていきたい。また、余裕があれば、寝屋川にも寄ってきたい。

野間理事(吹田・摂津) 戦争前夜にいま日本がなっている。治安維持法のような弾圧が起りかねない。

# 「映画わが青春つきるとも～伊藤千代子の生涯～」

八尾上映会を取り組んで

八尾上映会事務局 茶園 真光

八尾でもこの映画を是非上映したいとの強い思いで、昨年12月末4団体（国賠同盟・新婦人・医療生協・女性党後援会）と個人2名の8名で世話人会を立ち上げ、取り組みを始めました。

上映する以上「少しでも良い環境で観てもらおう」と債権2口購入で、それに相応しい努力をしようと決意、上映日は会場の都合で11月19日と決定。まず「伊藤千代子って誰なん？」という疑問に答え、自信を持って取り組むためにしっかり学習しようと、4月16日中田進さんを講師に「100年前、平和とジェンダー平等をめざして24歳の若さで…、伊藤千代子の生き方から学ぶ」と題した学習を78名の参加でしっかり学び合った。

2回目は9月24日同じく中田進さんを講師に「世の变革を求めて青春を捧げた一人の女性が未来に託したものは何か…」と題した学習を行い、千代子が生きた暗黒の時代、弾圧にもめげず節を貫き通した千代子の生き方に学び、この映画への確信と今だからこそ是非成功させようとの思いを固め合った。

チラシ1万5千枚、チケット千五百枚を作り広げた。チケットは5枚・10枚と封筒に入れ、誰に何番を渡したかリストを作成し計1250枚を広げた。

世話人会では8人がラインで交流し合いながら、13回の会議と確認をしながら進めてきた。

迎えた当日、初回上映は320定員がほぼ満席となり、2回、3回目が、約80名～90名で最終477名の参加を確認。

ただ数のうえだけでなく、この映画を通して、今私たちは何をするのか、どう生きるのかをお互い問い続け、励まし合いながら千代子のあの熱い思いを引き継ごう！と歩み始めている。

※〈編集委員会から〉八尾実行委員会の取り組みは昨年11月19日でしたが、紙面の都合上今号に掲載させて頂きました。

八尾実行委員会と茶園氏に深くお詫び致します。なお全国的には第3次、第4次上映運動の実行委員会が組織されています。大阪でも第2次の上映会を計画しましょう。



当同盟の会員である渡辺国男さんが『安倍晋三元首相銃撃事件の深層…統一協会と野合・癒着の闇を照らす』を出版されました。このニュースも、当時は毎日の様にマスコミを賑わせていましたが、最近では『しんぶん赤旗』以外はあまり話題になくなりました。決して一過性にしてはならない問題で、戦後の右翼政治家たちが日本の再軍備の為に「特高官僚」を最大限利用したことともかかわる事件ですから、深く追求し続けるべきで、タイムリーな出版です。会員の皆さん是非とも購入をお勧めします。¥1,650（税込み）です。当事務所に10冊預かっています。お求めは、住所・TEL&fax番号・氏名を記入して、府本部までお申し込みください。送料180円にてお送りいたします。



昨年11月に湯河原で開催された第31回全国女性交流集の報告集です。日本共産党副委員長長の田村智子さんの記念講演『女性の権利・ジェンダー平等―時代を拓く不屈の闘い―』が大変話題をよびました。一冊1000円です。お求めの方は府本部事務所まで、左記の要領でお願いします。

## 本の紹介

2冊の本を紹介いたします。「女性交流集会報告集」と「安倍晋三元首相銃撃事件の深層」です。

府本部事務所まで、左記の要領でお願いします。

久しぶりに合唱を聴くことが出来良かったです。子どもたちの伸びやかさに元気を貰いました。ウクライナへロシアが侵略して1年。心苦しい日が続いている中、今日の尾西先生の多喜二をめぐる深く迫る当時の状況も丁寧に教えて頂き、とても良かったです。人々の心に訴えて、ひとつとを大切にしたいと願う。このテーマで運動をさらにすすめて行き、みんなが明るく暮らしていける様に問題意識を持っていきたいと思っています。とても良かったです。(羽曳野市Iさん 79歳)

元気あふれる子どもたちの歌声が心に響きました。今まで知っていた(思い込んでいた)こととは違った切り口で、新しい情報・知識を頂きました。諸課題・諸運動をすすめて行くために大きなヒントを得ることが出来ました。

(豊中市Kさん 68歳)

良かったです。中でも「ビリーブ」の知っている曲が歌われ立派な構成になっていました。小さい子どもからお年寄りも含む合唱団は素晴らしいです。ウクライナ情勢をチャイコフスキーなど音楽のことから始められ安保3文書や北方領土問題などそして多喜二とハリコフ会議、多喜二の多くのことが良くわかりました。志賀直哉との関係は、展示を見て初めて知りました。

(東住吉区Mさん 88歳)

良い構成劇でした。憲法9条を持つ国のあるべき姿を示している内容でした。ロシアの侵略、ウクライナとの戦争について、新たな視点を提起されたこと。「軍事対軍事」で平和は作れないということを変更して考え、周りにも提起出来たらと思います。(門真市Nさん 71歳)

今日は大阪マラソンでタクシーが使えないため乗りなれない電車であたら間違えてしまい第一部が見られなかった。残念!もう少しビジネスパーク駅への乗り継ぎを調べて来れば良かったと反省。あの時代の多喜二を取り巻く時代背景が良く分かった。いま、またあの時代が再びやって来ようとしている。何とか共産党を大きくして戦争を止めなくては!!

(吹田市Tさん 76歳)

幅広い世代構成で素晴らしい歌声をありがとうございました。また、新しい知識を頂きました。誰のための戦争か?本当にそう思います。今の日本これからの日本みんなが考える時です。(河南町Nさん 67歳)

子どもたちのきれいな声が印象に残りました。I believe future ~ 涙ができました。ウクライナや世界で紛争(戦争)・気候危機で苦しんでいる子どもたちを思うと、大人の一員として申し訳ない思いです。「市民の声を聞こう」本当にそう思いました!ウクライナの戦いにも疑問を、市民との連帯、まだまだ未熟だと思っています。大阪は特にそう思います。

毎年こころ新たにできるので、楽しみにしています。火を継いでいきたいです。(西淀川区Nさん 75歳)

生誕 120年 没後 90年  
2023年 多喜二の火を継ぐ

# 大阪多喜二祭



さる2月26日に開催された多喜二祭の感想文がまとまりましたので『不屈』紙面にて、ごく一部を掲載させていただきます(4面と5面です)。

感想文には……①第一部 文化行事 合唱構成劇「ぞうのつばさ」について ②第二部 尾西康充氏の記念講演について ③展示など全体について……の三点について感想を頂きました。

若い世代も一緒に参加した、平和を願う構成劇は今、本当に平和が求められている時だけに、多くの人に聞いてもらい共感してもらいたいと思いました。歌ってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

(匿名 63歳)

子どもたちの歌声が可愛くて新鮮でした。最後の世界の挨拶の言葉とウクライナ国旗を使う演出が良かったと思います。『ビリーブ』の歌詞のような世界になればいつも思います。メディアによって作られた政治家は危険である。ヒトラー、ゼレンスキー、はっきり云われませんでした。橋下……。戦争ではなく平和が必要！全くその通りです。ゼレンスキーへの批判は鋭く正しいと思います。情熱的な意気を感じました。尾西先生は冷静で鋭い分析をされました。

(桜井市Oさん 67歳)

素晴らしい歌声でした。何といつても平和が一番です。元気を頂きました。ロシアとウクライナの関係が少しですが分かった気がします。ウクライナに武器を援助するのが良いのでしょうか？戦争が長引く気がします。(東大阪市Kさん 70歳)

子どもたちの明るい歌声に感動しました。今まで疑問に思っていたことがハッキリした。(ゼレンスキー大統領について)戦争に国民を巻き込まないのが指導者の役割という話にととても納得しました。

(堺市Tさん 74歳)

子どもたちの元気な声に感動しました。また、みんなで一致協力、楽しく、魅力のある演出、ありがとうございました。少し難しい内容でしたが、印象深い事柄に多く接することが出来ありがとうございました。

(池田市Kさん 81歳)

## 横浜事件 戦時下最大の言論・思想弾圧 (第三回)

### 細川嘉六の生涯と論文「世界史の動向と日本」

② 上京

上山 慧 (府本部事務局次長)

泊尋常高等小学校を卒業したのち、細川は地元の宮崎尋常小学校で代用教員(準教員)として一年三ヶ月勤務していたが、高等小学校に在学していたころ、福沢諭吉の著書を読み、「何とかしてもっと勉強したい、東京へ行きたい、という気持ち」(歴史学者・服部之総による細川からの聞き取り。金澤敏子・向井嘉之・瀬谷實・西村央『スモモの花咲くころに』評伝細川嘉六)能登印刷出版部二〇一九年所収)になっていた。また、この間には細川の希望を知った恩師の勧めで師範学校を受験し、学科試験には合格するが、その後の口頭試験で不合格となっていた。

一九〇五(明治三八)年、細川は、恩師の同窓生で、同じ町から早稲田の文科に進んでいた先輩を頼って上京した。細川は高等小学校の同窓生で、料理

旅館「紋左」の女将・柚木ひさは、井本三夫の聞き取りに対して、「東京まで歩いて出てかれた。寺で泊めてもらったりお宮で寝たり、農家で頼んで泊めてもらったりしたそうです」と証言している(井本三夫「細川嘉六氏の人柄の形成」『泊・横浜事件の地』「建立委員会二〇〇八年」)。しかし、細川自身の回想によれば、泊から歩いて東京に出たのではなく、魚津から汽船に乗って新潟県直江津へ行き、そこから汽車に乗り換えて上京したという(前掲細川聞き取り)。

東京での細川は、仕事には苦労しており、医者や書生や、アイスクリームの路上販売をしただ。しかし、いずれも長続きせず、「アンコ」と呼ばれた日雇いの労働者の仕事のかたわら、神田の正則英語学校に通学した。この「アンコ」という仕事につ

いて、細川は次のように回想している。

「アンコというのは、当時砲兵工廠の前あたり立ちんぼしていた自由労働者たちのことです。なぜ、アンコというかといえば、鮫鱈という魚は、でかい口をあけて餌の飛び込んでくるのを待っている、その『あんこ』からきた隠語ですね。この魚のように口をあけて、仕事を待ちかまえているわけです。

私もとうとうこの世界に飛び込んだ。この世界には親分がおって、その日その日の臨時仕事について、めぼしい奴を選んで斡旋してゆくのです。そして、とうとう斡旋してもらえずに仕事のないときは、『アブレた』というわけで、その頃すでに、『アブレる』という言葉を使っていました。私自身は、この親分から印半纏のようなものをもらい、砲兵工廠の中でトロッコを押したりするような仕事にありつき、したたかもの仲間に入ってアンコ生活を続けました。そういう仕事をしながら、

正則英語学校へ通いはじめたのです。」(前掲細川聞き取り)

やがて収入の安定が保証されない「アンコ」の仕事に不安を覚えるようになり、同郷の知人とともに納豆売りを新たにはじめたが結局失敗に終わっている。その後、先輩や友人たちから同じ富山県出身の司法省官僚を紹介され、その口添えで司法省の雇い人となったことにより、ようやく収入が安定してきたため、正則英語学校から第一高等学校に進むための予備校に移った。(以下次号)

#### 第5回大逆事件全国サミット

5月27日(土)14時から(開場13時)

会場：兵庫県学校厚生会館

講演：「大逆事件の真実」…山泉進氏

「神戸の大逆事件犠牲者 岡林寅

松・小松丑治」…上山慧氏

参加費(資料代等)：1,000円

※翌28日(日)はフィールドワーク実施

※詳しくは府本部までご連絡ください



## 〈袴田事件〉を知るために 2本のDVDを紹介いたします

『不屈』編集委員 岸野玲子理事

袴田厳さんを描いた映画2本を紹介する。DVDで見ることが出来る。

殺人罪で死刑判決を受け、無罪を主張して再審を訴えていた「袴田事件」の袴田厳さん。

高裁が再審請求を認め、検察が特別抗告を断念したため、ようやく無罪に向けての再審が確定することとなった。

この冤罪事件を描いたのが①『BOX 袴田事件 命とは』(高橋伴明監督、夏井辰徳脚本/2010)だ。

この作品は元裁判官・熊本典道の視点で描かれた。熊本はこの事件を裁いた裁判官のひとりで無罪を確信したがほかの2人が有罪を主張、多数決で死刑判決となり、主任判事であった熊本が判決文を書かなければならなかったその苦悩を描くもの(この映画が作られた時点では最高裁は再審請求を棄却していた)。熊本は判決を出したのち、裁判官を辞め、袴田の無罪を実

証すべく駆け回る。2007年に裁判に関する事実を公表する。映画はこれをもとにしたもの。

厳しい取り調べで自白を強要されたこと、証拠を捏造されたこと、それらは、戦前の治安維持法下で特高警察により政治犯たちが味合わされた苛酷な取り調べが戦後の警察にも引き継がれていたことを表す。

②『獄友』(金聖雄監督/2018)はドキュメンタリーで、殺人犯と言う濡れ衣を着せられた冤罪事件の被害者たちを描く作品。獄中29年へ布川事件の桜井昌司さんと杉山卓男さん。獄中17年6か月へ足利事件の菅家利和さん、獄中31年7か月へ狭山事件の石川一雄さん、そして獄中48年へ袴田事件の袴田厳さんである。無罪あるいは仮釈放で娑婆に出た彼らの友情とそれぞれの人生を追った。苦労を笑い飛ばす明るさに胸打たれる。

## 大阪府内の治安維持法犠牲者名簿から (女性) No16

字数の関係上一部省略しています。あいうえお順です。 女性部部长 柴田 雅子

西川 スエ (にしかわ すえ)

1916(大正5)年生まれ。60年7月死去(44歳)。佐賀県出身。34年日本共産党関西地方委員会の活動レポーターとなる。また、マルクス主義同好会で検挙される。39年共産党再建運動に参加。翌年、再び検挙される。夫は西川彦義。【無61】

林田 末子 (はやしだ すえこ スエコ)

1905(明治38)年2月10日生まれ出身は愛媛県越智郡今治町。東京女医学校産婆学科卒。25年林田哲雄と結婚。哲雄とともに日農、労働農民党に加入。日農愛媛県連や労働党小松支部結成に参加。32年5月、三島無産者診療所に産婆部設置、産婆として着任する。10月10日払暁、愛媛県特高課は全県にわたって全協や活動家の135名のいっせい検挙を行った。同じ10日、愛媛から大阪府吹田町に派遣された特高課員に検挙される(産婆、28歳)。15日、大阪から愛媛県壬生川警察署に護送される。11月15日頃、他の29名とともに検事局に送られる。過労のため結核に冒され療養を続けたが45年3月27日死去(40歳)。

『大毎』32・10・11、『愛媛新報』32・10・13、同10・17。同11・9】【無48】

松本 一枝 (まつもと かずえ 松本員枝 カズエ)

本籍は和歌山。和歌山の農家に生まれ、滋賀県の女子師範を卒業して小学校教師になる。さらに東京女高師に入学し、聖書研究会やエスペラント研究会をつくる。ロシア革命のあと人道主義の立場から救援活動をした。病気で退学。1922(大正11)年、大阪の私立宣真高等女学校の教諭となる。29年、大阪市弘済会に事務員嘱託として就職、看護婦養成所で数学の教師となる。その中で社会運動に目覚め、岩崎盈子らと木曜会をつくる。弘済会看護婦養成所の教え子である金本知恵子を木曜会に誘い、岩崎を紹介する。岩崎・川上貫一を通じて日本共産党に資金を提供する。33年検挙、9月29日起訴猶予となる(無職、35歳)。山本安英の演劇に感動し、後援会員となり公演を支援した。新劇関係のいっせい弾圧により、40年8月19日、新築地劇団後援会関係者として検挙される(弘済会書記、42歳)。【特15・8】



# 治安維持法犠牲者国家賠償国賠同盟・大阪府本部 署名推進ニュース NO.4

発行：2023年4月15日 ・ 署名推進委員会

1989年6月8日

第三任署名推進



月刊不屈号外

署名推進委員会は目標1万筆を掲げてスタートしましたが、なかなか手強い目標だ。

同盟府本部の会員減少が続いていること、コロナ感染が続いて大勢で集まる機会が少ないこと、在籍会員半数の所属支部がないことなど年度当初から分かっていたことですが2千人会員が力を合わせ、2018年の1万854筆の水準に戻しましょう。

4月1日理事会の到達点は約5400筆でした、あと4600筆に向かって残りの2ヶ月で何とか達成したいと心を込めて署名ニュースNO.4をお届けします。

## 1. 23年3月末の署名到達点

	5月最終	1月末	2月末		3月末	目標
2022年度	未確定	4094	4335		5135	10,000
2021年度	6249	2762	3041		4221	10,000

4月1日理事会集計では約5400筆でした。

## 2. 5月末までに1万筆到達をめざす作戦

4月1日理事会終了後、署名推進委員会を5人で開催、協議決定した事項

- 1) 府本部三役、推進委員は1万目標達成のため全力を尽くす。
- 2) 国賠同盟と協力共同が進んでいる団体を訪問して協力をお願いする。  
新日本婦人の会、国民救援会、日本民主青年同盟、日本共産党など。
- 3) 同盟内の対策（支部所属会員1人10筆を目途とする）  
★会員数に対し到達が低い支部を援助する。★支部所属のない会員には署名用紙を届ける。  
★署名ゼロ自治体を無くす。
- 4) 大きな集会・催しに参加して行動する  
★5月1日：メーデー（中央・地域とも）  
★5月3日：「輝け憲法・5.3 おおさか絵がかり集会」 扇町公園・14時開会  
署名隊は午後1時、扇町公園東口（JR天満からの入口）に集合、用具は準備します。メインスピーチ：猿田佐世さん（弁護士）。集会後市民パレードがあります。  
★5月7日：ケイ・シュガーコンサート 午後5時開演、住吉区民会館（検討中）

**国会請願参加者募集** 日程：5月16日（火）・・・前回ニュースで予告した17日は変更  
更にされた。

交通費援助の予定（希望者多数の場合、要相談）、原則日帰り。府本部へ申し込み下さい。

# 治安維持法同盟 学習会



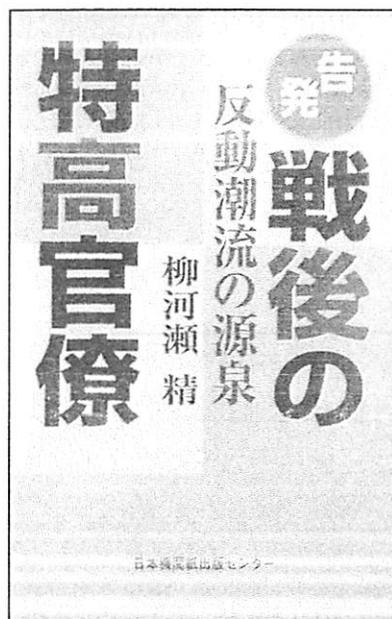
## 『告発 戦後の特高官僚—反動潮流の源泉—』

4月28日(金) 14時(開場 13時30分) ~ 16時

国労大阪会館 3階大会議室

(参加費無料)

お話し：有川 功氏 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟大阪府本部名誉会長



戦前、日本国民の口を覆わせ、耳をふさがせ、目を閉じさせて、「お上」の思いどおりに従わせ、侵略戦争に駆り立てていった時代の、国民抑圧の直接的・中心的存在が特高警察＝特別高等警察＝特高です。この本は、その特高警察の指揮者であった特高官僚たちが、戦後どのように過ごしたかを追求したものです。

『小林多喜二を築地警察署で虐殺した、この権力犯罪の「主犯」格といえる中川成夫は、戦後、東京都北区教育委員長になっています』一本書ははじめに一より。

戦後の政治的枠組み、入管組織の枠組みを作っていたのが、特高官僚たちであった・・・。

そら恐ろしくなる内容であり、絶対見過ごしてはならないことを勉強させてくれます。今、この時代にこそ学ぶべき内容でしょう。

反共イデオロギー攻撃の<sup>おおもと</sup>“大本”は、戦前から戦後へ、そして現在にもつながっている